

「令和5年度 地域支援センター 特別支援教育研修セミナー」を開催しました。



7月24日(月)に『令和5年度 だて支援学校地域支援センター「だてっこ」 特別支援教育研修セミナー』を開催いたしました。講師に 福島県立ふくしま医療センター こころの杜 主任心理判定員 吉田英記先生をお迎えし、「感情のコントロールが難しい児童生徒とのかかわり～思春期病棟 臨床の視点から～」の演題で御講演をいただきました。先生は8年の児童相談所での勤務と、13年の精神科での勤務経験を元にお話くださり、そこから導き出される沢山のアドバイスを頂戴することができました。

☆講演の内容より

- 感情コントロールとは、感情を自在に操ることではなく、不快な感情を自分で安全に抱えることとして定義する。
- 子どもの感情コントロールの力は、子どもの感情を大人がどう評価するのかという相互作用の中で発達する。
- 大人側の誤解として、大人が子どもの感情を強い力で制御しようとするほど、子どもの感情コントロールの力は育たなくなる(大人の「面倒くさい」という思いによって育たなくなってしまう)。
- 感情コントロールを身につけるには、①体が感じている感覚・感情を発する②大人にそれを承認され、言語化される③自分が安心する、という3つを繰り返すことが必要。子どもの感情的な状況は、関わりのチャンスでもある。

これらをはじめ、“子ども側の問題として表出していることが、実は大人側の関わり方の問題や、子どもへの怒りがそこに向かっていくように実は別に原因がある”ことなどを学びました。また実際に病院で実践していることとして、ストラテジーシートの活用をはじめとする方法を紹介くださいました。

講演後のアンケートでは、参加した教員から「医学的な面から客観的に見る(診る)ことができる事で、的確な対応に繋がるのだと感じた」「ストラテジーシートの活用は、ケース会のときに考えを整理して活用できるものだった」といった感想が寄せられました。

熱中症対策を講じた開催となったため、2会場に分かれ、片方はリモートでの聴講となりましたが、モニターに映し出された先生の熱い表情と、ユーモアを交えた語り口に、会場全体がぐっと引き込まれた様子が見られました。聴講する者の心に響く、有意義な研修となりました。

本校教職員は、職員室でそれぞれのPCやモニターを視聴し、リモートによる聴講となりました。

